

日本産コガネムシ研究史 (1)

高橋 寿郎

まえがき

本題のごとき報文を筆者のごとき浅学、未熟の者が発表することは真におこがましき次第であるが、長年コガネムシ類を採集、観察、調査、蒐集に努めてきた結果、コガネムシに関する文献も少なからず集り、現在の日本産鞘翅目中その概要がほぼまとまると考えられるコガネムシ類（ここにいうコガネムシ類とは広い意味のコガネムシ—Lamellicornia—Superfamily Scarabaeoideaでそれぞれ Family Luccanidae, Passalidae, Trogidae, Geotrupidae, Scarabaeidae の科をふくめたものである）の日本における研究の歴史を眺めることもまた無意義でないと考え、あえてここに発表させて頂くしだいである。

なにぶん一個人の所有する文献を中心にまとめたもので、ぜひ見なくてはならぬ重要な文献類も缺いており、表題の意味からすれば真に不十分な内容となってしまったが、それらは機会を得ば逐次補筆訂正を加えてより完全なものにまとめてゆき度くご叱正、ご教示を得れば幸である。また誰かがやらねばこのようなことは出来ぬものだという意味からして一つの資料として何等かの参考ともなれば望外の喜びである。

前に記したごとくこの報文は筆者の所有せる論文を主としてまとめたもので重要な論文でわかっているものは書名をも加えるようにしたが、なお不十分な跳りはまぬがれない。また古い文献類の Copy は石田裕、中根猛彦、野村鎮、野村全、大倉正文、奥谷禎一、沢田高平、和田義人の諸氏（A・B・C順）によって入手し得たものでここにこれらの方々へ厚くお礼申上げる。

本報文は日本のコガネムシ類の現在までの研究経過を文献類よってのべたものでその性質上、次の3区分に分けた、即ち 1. 分類篇、2. 生態、形態篇、3. 地方相、分布篇。若干筆者の解釈で取扱が厳密に出来ないことをお詫びする。2, 3についてはいづれ機会あるときに発表するとして本報文では1の分類を中心とした研究史を数回に分けて発表したい。

日本人による明治までのコガネムシ類図説

学問的に日本産のコガネムシ分類を研究したのは残念ながら欧米人によってであるが、コガネムシ類を図説したものでは可成り古くわれわれの先祖の手になるものが

ある、充分なる資料を見ることが出来なかったので極めて雑な収録であるが、気付いたものを一応記録して置き度い。

1709 (宝永六年己丑) 貝原益軒、大和本草

大和本草には邦産の天産物1366種の名称、来歴、形態、効用などを記したものであるが、この中でカブトムシを図説されていることが良く知られている、貝原益軒は本書作製前に“本草綱目品物”“本草名物附録”(寛文12年、1672)、“筑前名寄”などの著があるがその中にはたしてコガネムシ類がふくまれていたかどうかかわからない、しかしながら記載されたカブトムシが恐らく日本で始めて図説されたコガネムシではなからうか? (江崎、1947&1952, 三宅、1919, 日本生物学史, p.155, 1960)。

書物ではないが小川破生が享保年間(1716~1735)に作った秋草模様詩絵文庫の原色図を見ると(日本歴史シリーズ, Vol.14, p.184, 1966)、雄大なカブトムシが出ている。

1713 (正徳三年) 寺島良安編、和漢三才図会

大阪の医、寺島良安の篇になる105巻、81冊のいわゆる百科事典であるが故加藤博士が詳しく解説したものである(昆虫界, XIII, 121~122, 1955)。それによると“せんちむし”なる解説があり種はノゴギリヒラタコガネ及びクロヒラタコガネのようで共に日本に産しない、中国の原著からの引用らしいが記されている。もっとも金亀子“コガネムシ”なる解説もあるが、これはタマムシのことで真のコガネムシのことでない。同じく“ブンブンムシ”も蠅のことである。

1840 (天保11年庚子9月26日) 蛭螂射工図説

本書は越中富山の藩主前田利保(万香亭)が同好者を集めて“楮鞭会”なる会合を結成輪番で席を設け動植物や鉱物を談じ研究に励んだ、その中で天保11年庚子9月26日に前記、前田利保以外に資生圃(筑後守、馬場大助)、四季園(節翁、佐橋兵三郎佳依)、楽圃(昌羽、飯室庄左衛門)、玩封亭(石寿、武蔵孫佐衛門)、清雅らが集って蛭螂射工の品類を研究した。蛭螂射工はコガネムシのことである。この会の記録に画家雲停関根榮吉の図を加えて“蛭螂射工図説”なる書を出した、コガネムシ類を図説した本としては明治時代までに本書が唯一の貴重な文献である。記載された種は次のごとくであり、当時の

考でコガネムシとしたものであり中にはコガネムシ以外の種も若干ふくまれるが、全体として科学的に集め研究されている。

カブトムシ、アカカブトムシ、サイカシムシ、ヂムシ、小カブトムシ、小さいカブトムシ、ノコギリムシ、クハガタ、ヒメクハガタ、コブムシ、大コブムシ、クロコガネムシ、大チャイロコガネムシ、クソコキブイブイ、マメハンメウ2種、コマメ、クロマメ、大名ムシ、ククリマメ、カキコガネムシ、モチブイバラ、天社虫、龍虱、蟬蛸、クロアブラムシ。

なお上記武蔵石寿翁が天保間に作った虫類標本が現在でも東大農学部動物学教室に蔵されていて、それを解説されたのを見ると（加藤，昆虫界，I. 6, p. 592, 1933）次の江戸産のコガネムシがあることがわかる。即ち

- B. 13. カナブン, *Rhomborrhina japonica* Hope
ドウガネ, *Anomala cuprea* Hope
C. 12. ハナムグリ, *Cetonia pilifera* Mots.
E. 3. アヲハナムグリ, *C.roelofsi* Harold.

Motschulsky 以前の研究

日本産の昆虫に始めて学名を与えられたのは故江崎博士によると1775年（安永4年）から1776年（安永5年）まで長崎へ来て江戸まで旅行した Carl Peter Thunberg (1743~1828) が採集して持ち帰った昆虫を彼自身が発表したものであって、その最も古いものは *Dissertatis Entomologica novae insectorum species sistens 1781~1791*の中にあると、しかし残念ながらそれにはコガネムシは1種もない。

日本のコガネムシの研究は Motschulsky により始めてまとまったものが発表されたと言ってよいのであるが、それ以前にも断片的には記録がある、それら文献は全部を所有していないが野村氏のご好意でその大部分を見ることが出来た、未所有のものは文献にて逆引してわかったもののみを記しておく。

日本のコガネムシで始めて学名の与えられたのはどの種であろうか？ 文献類で逆に探して見ると 1771年の Linné が記載した (*Mant. Plant.* VI, p. 525) のものとして *Allomyrina dichotomus* Linné が Japan から記録されていることになる (W. Junk, *Coleop. Cat. Pars.* 156, p. 95, 1937)。そうなるこの種が一番古いことになる。所で江崎博士は“1758年 Linné によって命名された昆虫で日本に産するものは多数あるが、これは欧州、あるいはインドなどと共通の種類であって日本産の標本に基いて名付けられた種は一つもない、またその後彼の命名したものの中に日本産のものを見出すことが出来ない”

(1952) として始めに記したごとく Thunberg の命名を一番古いとされた、もしこの Linné の記載が日本

産であれば Thunberg の記載より古いことになる。もっとも本種は朝鮮、支那、インド支那に分布しているからその辺の産地のもので記載されているのかも知れない。しかしながら反面カブトムシそのものは日本では普通にいる種だし大きさも大きく、日本人が古くから記述（日本人による明治までのコガネムシ図説参照）しポピュラーなものであるから当時渡来した欧米人が持ち帰り何等かの経路で Linné が記載に使用したとしても別に不思議はない、この辺の事情どなたかにご教示頂き度いものである。中根博士も“日本を訪れた外国人たちによって欧州へ持ち帰られた甲虫が専門家の手によって発表されたのは1830年代に入ってからのもので——”と記しておられるので (1966)、やはりカブトムシの命名は日本産でない様に思われる。

次に W. Junk の *Coleopt. Cat.* によると 1835年 Faldermann が *Eophileurus chinensis* を日本から新種として記載しているよう取扱っているが野村氏のご好意で原論文 (*Mém. Acad. Petr.* II, p. 370, t. 4, f. 2) を見ることが出来たが学名のごとく支那からの記載で日本からのものでない、もっとも本種は日本に産する。

1835年に Hope は *Monograph on Mimela, a Genus of Coleopterous Insects* なる論文を発表 (*Trans. Ent. Soc. London*, I, p. 108~117), その中で *Mimela lucidula* なる新種を日本から記載した（この種は De Haan 教授が *lucidula*—光りかがやける—と名付けてくれた標本に基いたものであると）、この種は残念ながら支那原産の *Mimela splendens* Gyll. (*Melolontha*) (in *Schönh. Syn. Ins.* I, 3. p. 110, 1817) のシノムで消え去る、この種の方が前に発表されていて Hope は知らずに記載したのだと思う、しかし、このコガネムシが日本産として始めて学名を与えられた種ということになる。

以下 Motschulsky までの日本産コガネムシの研究をながめて見る。

1839; F. W. Hope: *A Monograph on Mr. William Sharp Mac Leay's Coleopterous Genus Euchlora*
Proc. Zool. Soc. London, vii, pp. 65~75.

本論文は野村鎮氏のご好意で人手出来たものである、ただ一部頁の抜けている所もあり全部がないのが残念である。

p. 70 に *Euchlora albopilosa* = *Anomala* の日本からの記載（もっともこの頁は見えていない）。

p. 72 に *Euchlora cuprea* = *Anomala* の日本からの記載がある。産地の記録はないが Leyden の De Haan 教授から受け取ったもので Siebold が *Cuprea* (銅色の) と添付していたのでこの名をつけたと記している。同じ頁に従来支那原産と取扱ってこられた（日本産としての

記録は Waterhouse, 1875) *Euchlora costata* = *Anomala* が日本からの記載であることがわかった。本種も De Haan 教授から送られたものであると。“前背板の側縁黄色で上翅黄褐色，体下も同様，肢は黄色”で多分これは未熟の標本であらうとしているが，この種の色彩変化は多くこの様な個体は採集出来未熟なるが故にはないこと当然である。共に現在でも普通に得られる種である。

p.75 に *Mimela splendens* を日本から記録しているように W. Junk の Col. Cat. にはあるが本論文を見ると支那からの記録である（本論文では勿論 *Euchlora* 属としているが *Mimela* 属であらうと記している。

1841, Newman, Trans. Ent. Soc. London, III, p.43.

W. Junk の Coleopt. Cat. pars. 66, p.134, 1916 によると *Popilia japonica* の原記載は Ann. Mag. Nat. Hist. 2, I, p.337, 1838 で学名の如く日本産での記載とある。岡山大学付図書館に上記原記載の Copy をお願いした所その文献の該当頁にはマメコガネの記載はないむねのご返事を頂いた，後に G. Kraatz 博士の *Popilia* 属の綜説 Monographische Revision der Ruteliden-Gattung *Popillia* Serville (Deut. Ent. Zeit. Heft. I, 1892) を見ると本種 (p.257) の原記載は本書になっている，本論文所有していないので表題が不明であるが *Popilia japonica* が p.43 に *Japonia* (Nipon, Jesso, Nagasaki) から記載されていることになる（この点どなたかのご教示を得れば幸である）。

1841, Hope; Description of some new *Lamellicorn* Coleoptera from Northern India

Trans. Ent. Soc. London, II, pp.62~67.

表題のごとき論文であるが p.64 に *Rhomborrhina japonica* なる新種が日本産で記載されている，産地は書いていないが有名なシーボルトが日本で得た標本で Leyden の De Haan 教授から送られたとある。

1842, Burmeister, Sechste Ordnung Coleoptera Zunft *Lamellicornia*, Erste Familia *Melitophila* Gatt.

Rhomborrhina, Gatt. *Anthrachophora*

Handb. Ent. III.

本論文は全部を見ていないので，どのような形態で発表になっているのか一寸わからないが *Rhomborrhina* 及び *Anthrachophora* 属の所で日本産新種の記載がそれぞれある。即ち

p.199, 4, *Rhomborrhina opalina* 5. R. clypeata Dup. 共に Japan から記載されているが現在の知見では *R. japonica* Hope カナブンのことである。

p.624, *Anthrachophora rusticola* Burmeister アカマダラコガネ，Japan からの新種記載，現在でも有効。

1844, Burmeister, Sechste Ordnung Coleoptera

I, Zunft *Lamellicornia*, Dritte Familie *Phyllophaga* Gatt. *Anomala* (*Phyllopertha*)

Handb. Ent. IV, 1.

p.243, 15. *Anomala 8-costata* Burmeister ヒラタフオコガネが Japan より新種として記載されている。

1855, Burmeister, Sechste Ordnung I. Zunft.

Lamellicornia, Dritte Familie *Phyllophaga*

Handb. Ent. IV, 2.

p.420, *Melontha japonica* Burmeister ♂ コフキコガネが Japan より新種として記載されている。

Motschulsky 以後の研究

1857; V. I. Motschulsky, Insectes du Japon

Etud. Ent. tome 6, pp. 25~41.

Motschulsky の伝記は江崎博士が紹介されている (1952), Motschulsky 自身は日本に来たことはないが 1854~1855 年下田へ来た Putiatin 提督と共に同地に滞留した Goschkevitch の採集品並びに後に箱館駐在のロシア領事となった同氏の夫人の採集品をもとに日本の昆虫と題し 3 篇の論文，1 篇の日本産昆虫目録を発表多くの新種の記載をされている。

本篇はその一番始めの論文で鞘翅目 24 種の記載の外に *Radaschkovski* の *Vespa* 1 種の記載を含み，別に蝶蛾類数 10 種の目録がある。

コガネムシは 9 種を新種として記載した，その内属名の変わるものはあるとしても 1 種がシノニムとされ 1 種が他種の form とされた以外 7 種が現在でも有効である。次に本篇で新種として記載された種名と解説をして見る。

p.29, 5, *Lucanus inclinatus* = *Prosocoilus* (*Metopodontus*)

6, *Psalidostomus* (?) *rectus* = *Macrodercus*

p.31, 7, *Geotrupes auratus*

p.32, 8, *G. laevistriatus*

9, *Mimela Gaschkevitchii*, 本種は 1871 年 Gyllenhal が支那から命名した (in Schönh. Syn. Ins. I, 3, append. p.110) *Mimela splendens* のシノニムとされている。

p.33, 10, *Heptophylla picea*

11, *Serica orientalis* = *Maladera* (*Aserica*)

12, *Hoplia obducta* = *Ectinohoplia*

p.34, 15, *Hoplia sabulicola* 前種の form として現在取扱われる。

1860, V. I. Motschulsky, Insectes du Japon

Etud. Ent. Tome 9, pp.4~39.

箱館駐在のロシア領事 Goschkevitch の夫人の採集品の目録で鞘翅目及び鱗翅目の多数が記録されている，主として箱館産のもののものであるが一部下田及び江戸で

採集されたと思われるものもふくまれている。

コガネムシ類の記載されたのは新種9種でこれらをふくめ前回の新種も勿論ふくまれ25種が記録されている。

新種は全部現在でも有効である、ただし属名の変るものは多い、記録された種のうち、日本に産しない種が3種ふくまれているどれも同定の誤りかとも思うし、大体現在どの種か見当もつく。次に新種名と記録種で属名変更、あるいは解説を要するものを記す(命名者名のないものは新種)。

p.13. *Phanaeus minutus*

本種はインド原産の *Onthophagus phamaeoides* Westwood (Royle's Himalala, Ent. p. 55, pl. 9, f. 3, 1840) のシノニムと Waterhouse はした (1875, 後掲, なお属名は *Onitcellus* となっている), 後に Arrow (Fauna British India, Col. Lam. III, p. 364, 1931) は属名を *Liatongus* とされた。

Copris acutidens

Cantharsius ochus = *Copris*

p.14. *Geotrupes splendidus* F. なる種が記録されているが Waterhouse も日本にはいないと記しており、いかなる種かただ単に学名だけ書いてあり判断にくるしむ、一応日本のファウナから省いておいた方が良く考える。

Trox opacotuberculatus

Phyllopertha horticola L. というのが記録されているが、この種はヨーロッパ、コーカサス、シベリヤ、蒙古に分布する種であって日本に産せず、*P. intermixta* のことをあやまって同定したようである。

Anomala oblonga F. というのもどうも同定の誤りで本種はヨーロッパ、コーカサスなどに分布している *A. dubia* Scop. var. のことで日本に産しない、次の種と同一種ではないだろうか?

Anomala rufocuprea

Rhombonyx testaceipes = *Anomala*

p.15. *Euchlora cuprea* Hope = *Anomala*

Mimela Gaschkevitchii = *A. splendens*

Serica japonica = *Maladera* (*Aserica*)

Holotrichia transversa = *Heptophylla picea*

Glycyphana pillifera = *Cetonia*

p.16. *Rhomborrhina clypeata* Burmeister = *R.*

japonica Hope

Lucanus Cantori Hope はアッサム産で日本には産しない、Motschulsky の記載したのは *L. macurifemoratus* のことらしい。

Dorcax binervis = *Macrodercus*

1861, V.I. Motschulsky, *Insectes du Japon*

Etud. Ent. tome, 10, pp.3~24.

この報文は全文所有しないのでどのような内容もっているかわからない、ただ pp.16~17 のみ Copy を有するが、そこにはクワガタムシ3新種の記載が出ている。ともに前回までに出た種であり学名として残るのはこの中では1種のみであるが、p.9に *Lucanus macurifemoratus* なる種が記載されていることがわかったこの学名は現在でも有効である。

p.16, *Macrodercus rectus*, 新種の記載でなく1857年に発表したときはこの標本であったがここに♀の記載がされた(もっとも前回は属名を *Psalidostomus*? としていた)。

M. rugipennis ♂ 新種の記載であるがこれは前種の♀に該当する。

p.17, *M. striatipennis* 新種の記載であるが、この種は1860年に発表されている *M. binervis* に相当し、現在この学名が使用されている。*M. cribellatus* 新種、本種は *M. binervis* のシノニムである。

1861; E. v. Harold; *Beiträge zur Kenntnifs einiger coprophagen Lamellicornien*

Berl. Ent. Zeit. V. pp.92~115.

13種の *Aphodius* の解説であるが、この中に pp.96~97 に日本からの新種 *Aphodius apicalis* Harold の記載がある。本種は現在 *A. (Colobopterus) haroldianus* Balthasar として取扱われている。

1864; Snellen van Vollenhoven, *Tijdsch. Ent. Nederl. VII.*

本論文所有していないので詳しい内容不明。

p.158に *Glycyphana fulvistemma* Mots., の変種 var. *sieboldi* の記載並びに p.159に *Trichius septemdecimguttatus* (Japan) = *Paratrichius* の新種記載あり。

1865; Snellen van Vollenhoven, *Tijdsch. Ent. Nederl. VIII.*

p.152, t. 2, f. 1,2 に日本より *Eurytrachelus rubrofemoratus* Voll. の新種記載あり、現在 *Nippondorcus* 属。

1866; V. I. Motschulsky, *Catalogue des insectes recus du Japon*

Bull. Soc. Imp. Nat. Moscou, XXXIX (1) : 163-200.

1864年までに Goschkevitch 夫人から送られた材料を主とし、従来知られた日本産昆虫(鞘翅目、直翅目、膜翅目、双翅目、同翅目、半翅目、鱗翅目)の目録であり多数の新種の記載を含んでいる。

コガネムシは7新種をふくみ46種が記録されており、新種以外は前3回の報文に出ている種なので、その解説は省くが新種としては現在どの種に当るか次に解説しておく。

p.7. *Calamosternus rectus* = *Aphodius* (*Phaeopho-*

dus)

p.8, *C. brevisculus* = *A. (Agolinius) piceus* Gyllenhal. *Melinopterus nigrotessellatus* = *A. (Aphodaulacus) Chilothorax vitta* = *A. (Phaeophodius) rectus*

P.9, *Rhombonyx lucidulus* = *Anomala lucens* Ballion

R. testaceipes = *Anomala*

Serica? *grisea* = *Parserica*

1867; *Harold; Coleopterolog. Heft. ii.*

p.100に *Caccobius jessoensis* Harold (Japan) の新種記載あり。

1871; Ballion, *Mém. Moscou, XLIV, 1, p.155.*

Anomala lucens Ballion (Japan) の新種記載あり。
1873, *C. O. Waterhouse; On the Pectinicorn Coleoptera of Japan, with descriptions of three new species Ent. Monthl. Mag., IX, p.277~278.*

G. Lewis 採集になる日本産クワガタムシ3新種の記載である。

p.277, *Aegus subnitidus* も産地は記されていない。
A. formosae Batesに良く似ており *A. laevicollis* の♀との区別がむづかしいむね記している。現在 *A. laevicollis* の subsp. として取扱われている (*A. formosae* も同様 subsp.)

Figulus binodulus 南日本とあり産地不明 (本州, 八丈島, 四国, 九州, 台湾に分布する種)。

p.278, *Figulus punctatus* 南日本で産地明記されていない (九州, トカラ諸島中之島, 台湾に分布する種)。
1874; *C. O. Waterhouse, Descriptions of three new species of Scarabaeidae from Australia and Japan Ent. Monthl. Mag. X, p.175~176.*

p.175に南日本より *Temnoplectron parvulum* なる新種の記載がある, 現在 *Panelus* 属として取扱われている。

C. O. Waterhouse 以後の研究

1875年に Waterhouse の日本産鯉角類の研究が発表され新種54種をふくむ 115種の日本産コガネムシ類が紹介されたが, これによって日本のコガネムシの研究も1つの基礎が出来上がったと見ても差支えないと考える。Waterhouse のこの研究が発表になるまでの日本産コガネムシ類は今までのべた論文にそれぞれ発表され49種が知られていることになる。比較的普通種が多いようであるが現在でも少い種がかなり含まれている。この時代までに知られている日本産コガネムシ類をリストにて発表しておきたいのであるが, 長くなるので省略するとして各種については既述の各項を参照して頂きたい。

Waterhouse の論文の現れた1875年から1900年までには多くの日本産コガネムシの研究が発表されているが, 残

念ながら未だ日本人の手による研究が全然現われていない。日本人の研究の現われるのは1900年以後になる。

1875; *C. O. Waterhouse, On the Lamellicorn Coleoptera of Japan*

Trans. Ent. Soc. part. I, pp.71~116, pl. III.

George Lewis (1839~1926) は 維新前後 (1864~1872) に長崎に在留し, 一旦帰国してから再び来朝し, 明治13年 (1880) から翌年にわたって1年8カ月滞在し主として鞘翅目を採集した, その採集品は自身並びに多くの専門家によって多数の論文として発表された。

長崎在留期間中に大阪・兵庫にも採集し, その期間中の採集品中のコガネムシ類をまとめたものがこの論文である。Motschulsky の論文が主として日本の中央部 (下田) 及び北部 (北海道) のコガネムシ相であったが, この Waterhouse の研究では南日本 (主として大阪・兵庫・長崎が中心) 産のものであり (一部北部産もふくまれているが) そういった意味でも貴重であるし, さらに重要なことは記録された種の半分が新種の記載であることで, 本文で取扱われた種は115種, そのうち新種は54種, 他に1新属, 1新変種が記載され日本に産しない種が2種ふくまれている。ただ残念なことに鯉角類といってもクワガタムシ, クロツヤムシ科をふくんでいない。1図版がついている。新種の中で11種がシノニムとなるが, 43種は属名の変るものはあっても現在でも有効である。次に記載された全種の検討をして見る, 命名者名のないのが本論文で新種記載された種である。

p.72, *Temnoplectron parvulum* Waterhouse = *Panelus* 本種は同一著者にて1874年新種として発表された種である (Nagasaki). p.73, *Caccobius jessoensis* Harold (Hokkaido), *C. brevis* (Hiogo, Osaka), *Catharsius ochus* Motsch. = *Copris* (Simabara and Hiogo, and other sandy districts in Kiushiu and Nippon)

p.74, *Copris tripartita* (Japan, Tsu-Sima)

p.75, *C. acutidens* Motsch. (Hiogo, Osaka), *Onthophagus lenzii* Harold (Yesso), *O. fodiens* (Onaura).

p.76, *O. ater* (Nippon and Kiushiu), *O. japonicus* Harold (Hiogo and Osaka), p.77, *O. atripennis* (Kiushiu and Nippon), p.78, *viduus* Harold (Kiushiu and Nippon), *O. nitidus* (Hiogo and Nagasaki),

p.79, *O. ocellato-punctatus* (Hiogo), *Oniticellus phanaeoides* Westwood = *Liatongus*, p.80, *Aphodius apicalis* Harold = *A. (Colobopterus) haroldianus*

Balthasar (Nagasaki, Hakodadi and China), *A. major* = *A. (Teuchestes) brachysomus* Solsky

(Hiogo), *A. globulus* Harold var. *bisectus* (Nagasaki), p.81, *A. elegans* Allibert = *A. (s. str.)*, *A.*

lividipennis=A. (Aganocrossus) (Kagoshima), p.82. A. diversus=A. (Phaeophodius) rectus (Mots.), A. (Calamosternus) rectus=A. (Phaeophodius), A. (C.) brevisculus Mots.=A. (Agrilinus) piceus Gyllenhal. p.83, A. castaneipennis=A. (Phaeophodius) rectus (Mots.) (Nagasaki), A. nigerrimus=A. (Agrilinus) (Nagasaki), A. 4-punctatus Uddman=A. (Bodilus) sordidus (Fabricius) (Nagasaki), p.84, A. uniplagiatus=A. (Calamosternus) (Simabara), A. uniformis=A. (Agrilinus) (Hakodadi), p.85, A. impunctatus=A. (Aphodillus) (Simabara), A. pallidicinctus=A. (Calamosternus) sublimbatus Mots. (Nagasaki), p. 86, A. (Chilo thorax) vitta Motsch.=A. (Phaeophodius) rectus (Mots.) (Nagasaki), p.87, A. pallidiligonis=A. (Chilo thorax) (Simabara), A. punctatus=A. (C.) (Nagasaki), p.88, A. obsoletus=A. (Bodilus) languidulus Schmidt (Nagasaki), p.89, A. ovalis=A. (Agrilinus) nigerrimus Waterhouse (Japan), A. rufangulus=A. (Orodalus) pusillus rufangulus Waterh. (Nagasaki, Hiogo, Aomori), p.90, A. urostigma Harold=A. (Aganocrossus) (Japan), A. variabilis=A. (Aphodalacus) nigrotesellatus (Motsch.) (Nippon and Kiushiu), p.91, A. (Melinopterus) nigrotesellatus Motsch.=A. (Aphodalacus) (Nippon and Kiushiu), A. atratus=A. (Acrossus) (Nagasaki, Hiogo), p.92, A. rugostriatus=A. (Pharaphodius) (Kobe), A. Lewisii=A. (Pleuraphodius) (Osaka), p.93, Ammaecius nitidulus=Aphodius (Ammocius) trituberculatus Schmidt (Nagasaki), Saproites japonicus (Nagasaki), p.94, Rhyssemus asperulus=Trichorhyssemus (Nagasaki), Psammodius convexus (Kobe), p.95, Aegialia nitida (Hakodadi), Ochodaeus maculatus (Simabara), p.96, Bolboceras nigropagiatus (Nagasaki and Corea), p.97, Geotrupes (Phelotrupes) laevistriatus Motsch. (Japan), G. (P.) aurata Motsch. (Japan), G. (P.) purpurascens=G. auratus Motsch. (Hakodadi and Yokohama), p.98, Trox setifer (Simabara), T. obscurus (Japan), p.99, T. opacotuberculatus Motsch. (Hakodadi, Nagasaki), Ectinohoplia variolosa=E. obducta (Motsch.) (Nagasaki), p. 100, Hoplia communis (Nagasaki, Yokohama), H. moerus (Hiogo, Nagasaki), p. 101, Serica boops=Ophthalmosericaria (Maiyasan, Hyogo), S. brnnea Linne=S. similis Lewis (Japan), S. grisea Motsch.=Paraserica (Japan), p.102, S. polita Gebler 本種は日本に産せず, Paraserica grisea に良く似ているが故にあやまって同定したものと思われる, 本学名の種は朝鮮, 満州, 東シベリヤに分布している. S. orientalis Mots.=Maladeria (Aserica) (Japan), Apogonia splendida

Bohem.=A. amida Lewis (Japan), p.103, A. major (Nagasaki), Holotrichia parallela Motsch.=Lachnosterna kiotonensis (Brenske) (Japan), H. picea=Lachnosterna (Nagasaki, Hakodadi), p. 104, H. morosa=Lachnosterna (Nagasaki), H. castanea=Miridiva (Kawachi), p.105, H. transversa Motsch.=Heptophylla picea Motsch. (Japan), Genus Plopponyx, P. flavidus, p. 106, Heptophylla picea Mots. (Nagasaki, Yokohama), Granida albolineata Motsch. (Nagasaki), Hoplosternus japonicus Harold=Melolontha frator Waterh. (Osaka), M. japonica Burm. (Yokohama, Hiogō, Nagasaki), Phyllopertha horticola Linn.=P. intermixta Arrow (Hakodadi), P. diversa (Nagasaki), p. 107, P. irregularis (Nagasaki, Kawachi), P. 108, P. orientalis=Blitopertha (Kawachi, Nagasaki, Hakodadi), P. arenaria Brullé 本種は日本に産しない種でどうして間違っているのか一寸わからない. P. octocostata Burm.=Anomala (Japan), P. 109, Anomala rufocuprea Motsch. (Japan), A. geniculata Motsch. (Japan), A. costata Hope (Japan), p.110, A. testaceipes Motsch. (Hakodadi, Nagasaki), A. flavilabris=Mimela (Japan), P. 111, A. difficilis=Mimela (Japan), A. pubicollis=Progapertha (Nagasaki, Hiogo), Euchlora cuprea Hope=Anomala (Japan), P.112, E. albopilosa Hope=Anomala (Japan), Tusima), Mimela Gaschkevitchii=M. splendens Gyllenhal, M. lucidula Hope=M. splendens Gyllenhal, M. testaceoviridis Blanch この種は日本には産しない, 支那, 台湾産である. Popilia japonica Newm. (Japan), Adoretus tenuimaculatus (Japan), p.113, Xylotrupes dichotomus Linn.=Allomyria (Japan), Phileurus chinensis Falderm.=Eophileurus (Japan), Rhomborrhina japonica Hope (Japan), R. unicolor Motsch. (Japan), R. polita (Yokohama), P.114, Glycyphana pilifera Motsch.=Cetonia (Eucetonia), G. argyrosticta Burm.=Oxycetonia jucunda (Faldermann) (Japan), G. Sieboldi Snellen v. Voll.=G. fulvistemma Mots. (Japan), G. fulvistemma Motsch. (Japan), Cetonia submarmorea Burm.=Protaetia orientalis Gory et Percheron (Japan), C. speculifera Swartz.=P. orientalis G. & P. (Japan), Anthracophora rusticola Burm. (Japan), P. 115, Gnorimus subopacus Motsch. (Tsu-sima), Trichius fasciatus Linn. (Yeso), T. septemdecimguttatus Snellen v. Voll. (Nagasaki)=Paratrachius, Valgus angusticollis=Nipponovalgus (Japan).

(11—V—1968)